

「とくしま流域水管理計画」の計画方針(案)の概要

◆「とくしま流域水管理計画」の趣旨

川上から川下, 地表水と地下水を結ぶ広がりをもった流域単位で, 県を挙げて取り組む「徳島ならではの」水管理の羅針盤として,
 ▼ 徳島県全域を対象として, 概ね30年後の「水管理の将来像」を明示
 ▼ 様々な施策を, 県民, 事業者, 教育機関, 行政(国, 県, 市町村)などが連携して進め, プラン毎に施策を束ねた「流域水管理プラン」として提示

◆「流域水管理プラン」の視点

“過去”から受け継ぎ, 育まれてきた「OUR(あわ)の水」を, “現代”を生きる私たちの使命として, “未来”へ紡(つむ)ぐため,
 「まちを創る」, 「人を育てる」, 「活力を生み出す」の3つの視点を持って, 「新次元の水管理」を展開

◆流域の将来像

永久(とわ)に続く,
 夢と希望が膨らむ
「OUR(あわ)の水」社会
 I 度重なる洪水被害との決別
 II 安定的に水の恵みを受
 III 豊かな自然環境を継承
 IV 災害を迎え撃つ万全の備え
 V 積み重なる水の歴史を共有

◆計画の体系

	I 治水対策プラン	II 利水管理プラン	III 水循環及び環境創造プラン	IV 災害対応向上プラン	V 水教育推進プラン
多様な主体(県民, 事業者, 行政など)や, 広範囲な空間(上流~中流~下流, 支川~本川など)に「横糸」を通し, 連携強化を図り, 各プランを推進					
目	県民の命と暮らしを守る 治水を最優先とした水管理	限りある水資源を 最大限に利用する水管理	豊かな水資源と 多様な環境を創出する水管理	事前の備えを固め, 迎え撃つ災害対応	“とくしま”ならではの水管理を 次世代へ継承する水教育
標	(1)洪水を安全に流す川づくり (2)水災害に強いまちづくり (3)県民の安全な避難の確保	(1)持続可能な水利用 (2)渇水被害の最小限化 (3)水資源の新たな活用	(1)水を育む自然環境づくり (2)自然を堪能できる河川環境づくり (3)生物が集う流域づくり	(1)県民と行政による相互連携 (2)フレキシブルな災害対応 (3)あらゆる災害を想定した事前対応	(1)子供目線で進める水教育 (2)全ての県民が関わる水教育 (3)県を越えて広がる水教育
基本施策	○河川・下水道対策, 流域対策を組み合わせた総合的な治水対策の推進 ○河川施設等の地震・津波対策の推進 ○総合的な土砂管理の推進 ○河川管理施設等の計画的・効率的な維持管理 ○河川整備と一体となった土地利用 ○避難判断等に必要となる情報の収集・配信	○貯留機能の維持・向上 ○新たな水資源の確保 ○地域の実情に応じた多様な流水エネルギーの活用 ○安全で安定した農業・水道・工業用水等の供給 ○渇水時の被害軽減対策	○水の涵養機能の維持・向上 ○安心して安全な水質保全対策の推進 ○良好な流域環境・水環境及び多様な生態系の保全・再生 ○地域の活性化に資する水辺環境の創出	○県民の安全を確保する避難勧告等の適切な発令の促進等の市町村支援 ○適正かつ確実な水防活動の継続をはじめとする地域防災力の強化 ○あらゆる水災害による被害を想定した事前対策の推進 ○震災時等の水資源の確保対策の推進 ○河川管理施設等の防災機能の活用	○次世代を担う子供たちをはじめとする, 地域住民への水教育の推進 ○「OUR(あわ)」の水文化等を継承するための人材育成 ○水教育を効果的に実施する仕組みの構築 ○水教育の考え方を効果的に県内外へ向け発信
展開中	(1)ダム・築堤・河道掘削・漏水対策・堰堤・森林整備等の組み合わせを最適化 (2)堆積土砂の活用を含めた総合的な管理 (3)河川管理施設の長寿命化計画の策定 (4)県民と協働による施設管理 (5)浸水を想定した建築制限及び避難計画の策定	(1)ダム等での貯水機能の維持及び向上 (2)水の反復利用や再生水の活用 (3)小水力発電等の推進 (4)農業用水や工業用水等の施設管理の徹底 (5)事前渇水行動計画や利水サポート団体による渇水被害防止	(1)森林及び農地の保全 (2)河川施設での涵養機能の促進 (3)流量及び水質状態の継続的な監視 (4)産学官民連携による生態系の保全 (5)水辺をスポーツレクリエーション活動の場として積極活用	(1)水害・地震・津波に係る細やかな情報発信 (2)人・物の充実による水防機能の強化 (3)放置艇の解消計画の策定 (4)河川施設の事前復旧計画の策定 (5)河川施設の避難所等の防災拠点への活用	(1)河川環境及び水防の学習会 (2)川の歴史及び文化を深める研修会・イベント (3)徳島県水防の日における行事の開催 (4)4K動画など創意工夫した水教育教材の作成 (5)学校や住民等を対象とした川の上下流交流会
新規事項	(1)住宅地を流れる水路や小河川の付け替えによる洪水の迂回 (2)メンテナンスフリーやIoTによる管理用機器の開発・導入 (3)維持管理用水中ロボットの開発 (4)未整備箇所での家屋等に対する洪水保険加入への支援制度 (5)危険箇所等の常時監視 (6)AI等を活用した水位予測やダム操作 (7)次世代の気象予報の活用	(1)洪水後期の放流量減量による治水容量を活用した利水強化 (2)貯水池末端部での土砂止め対策 (3)海水淡水化等による新たな水の確保 (4)水力発電の普及拡大を図る現制度の改定 (5)取水・送水施設の遠隔監視 (6)AI等を活用した貯水率予測 (7)家庭での水需要を減らす建築物の超節水化技術の開発・導入	(1)森林環境税による森林整備 (2)積極的な沿川農地の整備・保全 (3)雨水貯留・浸透施設による雨水涵養対策 (4)生活排水処理施設整備手法の最適化 (5)既存ダムの運用見直しによるフラッシュ放流・維持流量の増量 (6)屋上・壁面等でのグリーンインフラ整備 (7)水陸両用バス等の導入による水辺の観光地化の促進	(1)被災後衛星等での河川管理施設等の緊急点検 (2)土木技術等を熟知したウルトラ水防団員の養成 (3)洪水と地震の複合災害へ対応 (4)全災害対応シェルターの設置 (5)河川管理施設等の耐水化 (6)河川水の非常用飲料水への活用や舟運による物資輸送 (7)消防用水確保のための河川へのアプローチの確保	(1)治水の歴史・水文化・節水啓発等水教育交流会議の開催 (2)水質保全や節水等を啓発するエコライフ指導員等の養成 (3)洪水などのバーチャル体験館の設置 (4)沿川に残る歴史的な文化遺産を再評価した上で保全 (5)河川管理施設等の散策道への活用 (6)流域ツーリズムの造成 (7)水管理計画推進サポーターの認定

流域・河川別に水管理を「さらに掘り下げ」

流域別計画	順次策定	(1)吉野川上流域水管理計画	(2)吉野川下流域水管理計画	(3)那賀川流域水管理計画	(4)勝浦川流域水管理計画	(5)海部・穴喰川流域水管理計画	その他重要河川
		▼「未来へ紡ぐあわの水会議」メンバーから選任した策定協議会を設置 ▼計画期間「10年間」 ▼5年目に中間評価・計画見直し ▼「管理指標」を設定しPDCAサイクルに基づく進行管理					